



2022

# 光道園 レポート

# 光道園の “原点”を 理解し、 “現在”を 知り、 “未来”を 描く

令和4(2022)年度の『光道園レポート』のコンセプトは、「つながる」です。4月、障害者支援施設にて、園内初の新型コロナウイルス感染症のクラスター感染が発生しました。前例はなくとも「重症化させない」という想いをひとつに、利用者の方、職員が一丸となり、26日に及ぶ闘いを乗り越えました。他施設で陽性者が確認された際にも、今回の経験を糧に感染拡大防止策をとれたことで、「利用者の方の望むくらし」を継続できています。

この1年を通して児童・障害・高齢のすべての園内事業所が“互いにつながる心強さ”を改めて感じています。“ひとり”では困難でも“みんな”で連帯することで乗り越えられることを実感しました。

これからも光道園を信頼し、応援してくださる皆様とのつながりも強固にしながら、地域で安心して住み続けられるまちのため、社会福祉法人として「今」そして「これから」のくらしを創っていきます。

私たちは本年年次報告書(アニュアルレポート)の企画編集において、読者の皆様に届けたい内容を「ストーリー(物語)」と捉えました。年次報告書(アニュアルレポート)とは本来、経営的な数字を報告書としてまとめたものですが、私たちはその数字の背景にある一つひとつの「ストーリー」に光を当てることで、改めて自分たちの仕事の価値に気がつきました。その「ストーリー」を自分たちの言葉で語り、届けることが職員である私たちの成長であり、福祉の力で地域の未来をつくる大切なプロセスだと思っています。

この『光道園レポート』を手にとった皆様が「光道園らしさ」に共感し、「光道園を応援したい!」とファンになっていただけるよう、この1冊に私たち職員の仕事にかける情熱と福祉のプロとしての誇りを込めました。

詳しい解説は、光道園の職員から是非お聴きください。職員一人ひとりの想いのこもった言葉で、「光道園らしさ」をお届けします。この1年のストーリーを詰め込んだ、『光道園レポート2022』をお楽しみください。

## 園訓

### 愛なき人生は暗黒であり、汗なき社会は墮落である。

自らも全盲という障害を持ちながら、広く全国の障害者のために光道園を設立した初代園長「中道益平」が、生涯を通して貫き通した精神である。

私たち光道園職員は、この言葉を「光道園精神」として、いついかなる時も、社会情勢が如何に変わろうとも、継承し実践してゆく。

## 目次

『光道園レポート』コンセプト/目次/園訓	1
理事長あいさつ/令和4(2022)年度 基本方針	2
法人決算報告	3
令和4(2022)年度の法人ハイライト	5
光道園の取組み	7
施設・事業所紹介 障害事業	9
施設・事業所紹介 高齢事業	16
施設・事業所紹介 事務局	20
光道園へのエール	22
「10」の数字で見る	23
光道園'sストーリー	25



# “ひと”と“まち”をつなぐ

社会福祉法人光道園 理事長 荒木 博文

2022(令和4)年、新型コロナウイルス感染症の世界的流行という未曾有の危機から約2年余りが経過し、感染防止対策と社会経済活動の両立が進んできています。そんな中、光道園においては4月に新型コロナウイルス感染症のクラスター感染が発生し、利用者の方とご家族、関係者の方々に多大なご心配とご迷惑をおかけしました。

「感染しない、感染させない、感染を広げない」を常に意識した行動を継続するとともに、「広がっても重症化させない」ために感染ラウンドを実施、感染症対策の見直しと再確認を徹底しました。利用者の方が安心・安全に過ごしていただけるように、今後も引き続き行ってまいります。

また、6月には朝日事業所内に新たに「地域包括支援センター丹生」が開所しました。越前町からの委託を受け、これからは越前町地域包括支援センターと地域包括支援センター丹生が連携を図り、越前町民の皆様が住み慣れた場所で生活を続けられるように支援を行ってまいります。

園内のクラスター感染を通して感じる事ができた利用者の方とご家族、職員とのつながり、地域包括支援センター丹生が開所したことで、これから広がっていくであろう越前町民の皆様とのつながり、光道園レポート2022のコンセプトである「つながる」という言葉を改めて痛感した1年でありました。

社会福祉法人光道園は、利用者の方・ご家族、職員、地域の皆様とのつながりを大切にこれからも歩み続けてまいります。より一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

## 令和4(2022)年度 基本方針

### 障がい者支援サービスの充実と将来構想

- (1) 光道園らしさを基調としたサービス展開
  - ・盲重複障害者の専門施設としての光道園
  - ・働く、学ぶ、育む光道園
- (2) 徹底した利用者本位の支援
  - ・自立支援実践及び意思決定支援を組み込んだ個別支援計画を基本としたサービス展開
  - ・利用者個々の状況に合わせグループホームや老人施設等への速やかな移行
  - ・光が丘ワークセンター建て替え及びライトホープセンター個室化の基本設計
  - ・発達障害、精神障害の専門性を高める
- (3) 在宅福祉サービスの拡充
  - ・地域生活支援拠点等(居住支援として、相談・体験の機会、場・緊急時の受け入れ)としての役割

### 高齢者支援サービスの充実と将来構想

- (1) 介護保険施設、事業所の安定経営と高品質のサービス提供を目指す
  - ・介護ロボット、見守り装置
  - ・AI機器等の活用
- (2) (越前町地域包括支援センター民間委託の受託、運営)と地域包括ケアシステムへの具体的対応
- (3) 養護(盲養護を含む)老人ホームの定員確保及び経営健全化
- (4) 自立支援型施設、事業所として確立を目指すとともに地域に拡大
- (5) 相談支援事業(ワンストップサービス)の充実

### 組織及び財政基盤の確立・強化

- (1) 法人及び施設経営へのガバナンス強化への取り組み
  - ・特定社会福祉法人に準ずる法人として、理事会の責任において、会計監査人の指導の下、財務規律および内部統制整備を図る
  - ・電子決裁・デジタル化システムを導入し迅速な経営体制構築と業務省力化を図る
  - ・光道園SDGs宣言の実践
  - ・法人本部の円滑機能(法人業務、人事管理、財務管理、労務管理、人事、人材確保・定着・育成、施設管理を一元的に)
- (2) 職員の研修・育成体制の強化
  - ・光道園ブランディング戦略(2021アニュアルレポート

- 作成・広報活動強化)
  - ・臨床心理士による利用者聞き取りとフィードバックにより利用者満足と職員育成
  - ・メンタルヘルスチェック及びカウンセラーの定期相談の継続実施
- (3) 自然災害、原子力災害、感染症発生時の対応強化と事業継続計画及び平常時の防犯対策
  - (4) 苦情解決体制及び虐待防止体制の機能強化
  - (5) 計画的大規模修繕の検討と実施
    - ・ホープ、ナースコール入れ替えとタブレット導入
    - ・介護ロボット、見守りロボット等各施設導入促進
  - (6) 法人連携による地域貢献活動の具体的な取り組み

# 令和4(2022)年度 法人決算報告

## 事業活動計算書

(自) 令和4年4月1日 (至) 令和5年3月31日 (単位: 千円)

勘定科目	当年度決算	前年度決算	増減
(サービス活動増減の部)			
介護保険事業収益	635,696	605,578	30,118
老人福祉事業収益	250,043	254,738	△4,695
就労支援事業収益	24,362	23,530	832
障害福祉サービス等事業収益	2,145,397	2,128,972	16,425
その他の事業収益	3,933	3,564	369
養成研修事業収益	360	400	△40
経常経費寄附金収益	13,393	12,130	1,263
サービス活動収益計	3,073,184	3,028,912	44,272
人件費	1,994,048	2,063,610	△69,562
事業費	435,654	415,481	20,173
事務費	329,769	310,269	19,500
就労支援事業費用	28,659	27,617	1,042
利用者負担軽減額	299	299	0
減価償却費	241,523	234,949	6,574
国庫補助金等特別積立金取崩額	△73,205	△71,239	△1,966
徴収不能引当金繰入	344	383	△39
サービス活動費用計	2,957,091	2,981,369	△24,278
サービス活動増減差額	116,093	47,543	68,550
(サービス活動外増減の部)			
受取利息配当金収益	3,988	3,984	4
その他のサービス活動外収益	27,644	22,707	4,937
サービス活動外収益計	31,632	26,691	4,941
その他のサービス活動外費用	16,295	17,049	△754
サービス活動外費用計	17,049	17,049	0
サービス活動外増減差額	15,337	9,642	5,695
経常増減差額	131,430	57,185	74,245
(特別増減の部)			
施設整備等補助金収益	1,149	9,148	△7,999
施設整備等寄附金収益	10,732	0	10,732
その他の特別収益	382	440	△58
特別収益	12,263	9,588	2,675
固定資産売却損・処分損	0	0	0
国庫補助金等特別積立金積立額	3,140	9,148	△6,008
その他の特別損失	0	0	0
特別費用計	3,140	9,148	△6,008
特別増減差額	9,123	440	8,683
当期活動増減差額	140,553	57,625	82,928
(繰越活動増減差額の部)			
前期繰越活動増減差額	2,953,408	3,053,250	△99,842
当期末繰越活動増減差額	3,093,961	3,110,875	△16,914
その他の積立金取崩額	750	70,433	△69,683
その他の積立金積立額	195,700	227,900	△32,200
次期繰越活動増減差額	2,899,011	2,953,408	△54,397

## 資金収支計算書

(自) 令和4年4月1日 (至) 令和5年3月31日 (単位: 千円)

勘定科目	本年度予算額	本年度決算額	差異
介護保険事業収入	633,360	635,696	△2,336
老人福祉事業収入	249,560	250,043	△483
就労支援事業収入	28,660	24,362	4,298
障害福祉サービス等事業収入	2,142,990	2,145,397	△2,407
その他の事業収入	3,940	3,933	7
養成研修事業収入	360	360	0
経常経費寄附金収入	23,190	13,393	9,797
受取利息配当金収入	4,090	3,988	102
その他の収入	27,270	27,644	△374
事業活動収入計	3,113,420	3,104,816	8,604
人件費支出	2,041,410	2,038,425	2,985
事業費支出	443,210	435,654	7,556
事務費支出	339,040	327,870	11,170
就労支援事業支出	28,140	28,102	38
利用者負担軽減額	350	299	51
その他の支出	16,780	16,296	484
事業活動支出計	2,868,930	2,846,646	22,284
事業活動資金収支差額	244,490	258,170	△13,680
施設整備等補助金収入	1,280	1,149	131
施設整備等寄附金収入	0	10,732	△10,732
施設整備等収入計	1,280	11,881	△10,601
設備資金借入金元金償還支出	7,500	7,500	0
固定資産取得支出	48,200	46,898	1,302
ファイナンス・リース債務の返済支出	1,710	1,628	82
施設整備等支出計	57,410	56,026	1,384
施設整備等資金収支差額	△56,130	△44,145	△11,985
長期貸付金回収収入	480	480	0
投資有価証券売却収入	10	0	10
積立資産取崩収入	15,950	12,904	3,046
その他の活動収入計	16,440	13,384	3,056
長期貸付金支出	2,300	2,300	0
投資有価証券取得支出	50	0	50
積立資産支出	212,720	212,421	299
その他の活動支出計	215,070	214,721	349
その他の活動資金収支差額	△198,630	△201,337	2,707
予備費支出	4,440	0	4,440
当期資金収支差額合計	△14,710	12,688	△27,398
前期末支払資金残高	1,166,640	1,166,640	0
当期末支払資金残高	1,151,930	1,179,328	△27,398

貸借対照表

法人全体

令和5年3月31日現在 (単位:千円)

資産の部				負債の部			
勘定科目	当年度末	前年度末	増減	勘定科目	当年度末	前年度末	増減
流動資産	1,316,284	1,342,259	△25,975	流動負債	249,876	341,788	△91,912
現金預金	877,484	901,246	△23,762	事業未払金	95,895	124,222	△28,327
事業未収金	431,937	431,298	639	その他の未払金	5,880	18,374	△12,493
未収補助金	3,574	6,427	△2,853	1年以内返済予定設備資金借入金	0	7,500	△7,500
商品・製品	345	339	6	1年以内返済予定リース債務	1,628	0	1,628
原材料	607	703	△96	1年以内支払予定長期未払金	1,371	0	1,370
前払費用	1,705	1,662	43	預り金	11	6	5
1年以内回収予定長期貸付金	960	960	0	職員預り金	31,807	29,442	2,365
仮払金	16	7	9	仮受金	516	532	△16
徴収不能引当金	△344	△383	39	賞与引当金	112,768	161,712	△48,944
固定資産	5,331,550	5,311,812	19,738	固定負債	168,723	153,509	15,214
基本財産	3,016,109	3,161,449	△145,340	リース債務	4,885	0	4,885
土地	322,049	322,049	0	退職給付引当金	156,412	151,109	5,303
建物	2,694,060	2,839,400	△145,340	役員退職慰労引当金	2,400	2,400	0
その他の固定資産	2,315,441	2,150,362	165,079	長期未払金	5,026	0	5,026
土地	179,565	179,144	421	負債の部合計	418,599	495,297	△76,698
建物	189,695	196,825	△7,130	純資産の部			
構築物	33,337	40,516	△7,179	基本金	969,412	969,412	0
機械及び装置	1,572	1,320	252	第一号基本金	862,712	862,712	0
車輛運搬具	12,469	14,182	△1,713	第二号基本金	106,700	106,700	0
器具及び備品	170,444	164,315	6,129	国庫補助金等特別積立金	1,022,266	1,092,359	△70,093
建設仮勘定	0	26,235	△26,235	国庫補助金等特別積立金(整備時分)	1,022,266	1,092,359	△70,093
有形リース資産	4,049	0	4,049	その他の積立金	1,338,543	1,143,593	194,950
権利	2,106	2,352	△246	施設整備等積立金	600,607	568,607	32,000
ソフトウェア	16,598	22,644	△6,046	建設積立金	615,000	452,000	163,000
無形リース資産	2,464	0	2,464	土地取得積立金	120,286	120,286	0
投資有価証券	200,000	200,000	0	工賃変動積立金	400	400	0
長期貸付金	5,040	3,700	1,340	設備等整備積立金	2,250	2,300	△50
退職給付引当資産	156,413	151,109	5,304	次期繰越活動増減差額	2,899,011	2,953,408	△54,397
その他の積立資産	1,340,944	1,145,994	194,950	(うち当期活動増減差額)	140,552	57,624	82,928
長期前払費用	745	2,022	△1,277	純資産の部合計	6,229,234	6,158,773	70,461
資産の部合計	6,647,834	6,654,071	△6,237	負債及び純資産の部合計	6,647,834	6,654,071	△6,237

財産目録

令和5年3月31日現在 (単位:千円)

資産・負債の内容	
I 資産の部	
1. 流動資産	
現金預金	877,484
事業未収金	431,937
未収補助金	3,574
商品・製品	345
原材料	607
前払費用	1,705
1年以内回収予定長期貸付金	960
仮払金	16
徴収不能引当金	△344
流動資産合計	1,316,284
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
土地	322,049
建物	2,694,060
基本財産合計	3,016,109
(2) その他の固定資産	
土地	179,565
建物	189,695
構築物	33,337
機械及び装置	1,572
車輛運搬具	12,469
器具及び備品	170,444
有形リース資産	4,049
権利	2,106
ソフトウェア	16,598
無形リース資産	2,464
投資有価証券	200,000
長期貸付金	5,040
退職給付引当資産	156,413
その他の積立資産	1,340,944
長期前払費用	745
その他の固定資産合計	2,315,441
固定資産合計	5,331,550
資産合計	6,647,834

資産・負債の内容	
II 負債の部	
1. 流動負債	
事業未払金	95,895
その他の未払金	5,881
1年以内返済予定リース債務	1,628
1年以内支払予定長期未払金	1,371
預り金	11
職員預り金	31,807
仮受金	516
賞与引当金	112,768
流動負債合計	249,877
2. 固定負債	
リース債務	4,885
退職給付引当金	156,412
役員退職慰労引当金	2,400
長期未払金	5,026
固定負債合計	168,723
負債合計	418,600
差引純資産	6,229,234

役員名簿

令和5年3月31日現在

役職名	氏名
理事長	荒木 博文
常務理事	堀 浩二
理事	角 佳津見
理事	孝久 忠央
理事	加藤 泰雄
理事	山田 勝久
理事	村岡 英明
監事	野村 茂三
監事	白井 尊志

評議員名簿

令和5年3月31日現在

役職名	氏名
評議員	春木 誠一
評議員	松木 健一
評議員	矢納 正人
評議員	樋村 登
評議員	佐々木 幸夫
評議員	宮川 深雪
評議員	八田 玉江
評議員	渡邊 照夫
評議員	山崎 ふみ子
評議員	棟田 隆文

# HIGHLIGHT

## 法人ハイライト

令和4(2022)年度に重点的に行ってきた  
光道園の取り組みをご紹介します。

### 感染後の重症化を防ぎ、対策の標準化を図る 「感染症ラウンド」の取り組み

新型コロナウイルス感染症でのクラスター感染への備えとして、「広がっても重症化させない」をキーワードに平時からの仕組みづくりを整備しました。まずは、正確な情報を知り、対応を検討するため、県が主催する「感染症対策リーダー研修」に各施設職員が参加しました。そのうち2名を法人内感染症ラウンドチーム員として選任し、平時から各施設へ訪問することで感染状況を即時に把握し、手指消毒液の適切な使用方法の確認など対策の質の向上を図る仕組みを確立しました。常に対策を見直し、更新していくことで実践力は向上しており、感染症対策での光道園のスタンダードが形作られてきています。

8月、ライトホープセンターでのクラスター感染発生時にも、この仕組みにより、第三者の意見を取入れ見直した方法で対策しました。また、ガウンの着脱方法、感染リスクのあるところを触らないテクニックや手指消毒のタイミング、清潔と不潔の区別などを学び、それを即座に取り入れていくことができました。

ご家族の方に向けては、施設で陽性者が出た時点ですぐに連絡を入れることはもちろん、発生時と終息時には密に連絡を

取り合い、改めて通知でもお伝えしました。また、陽性になった利用者の方のご家族へは、少しでも安心していただけるように体調面などを都度ご報告しました。

今年度から取入れた感染症ラウンドによって、標準策が明確になることで、基本となる手洗い・うがいに加えて、感染リスクを下げた口腔ケアの方法や、居室内でも実施可能な活動の実施、使用済みマスクの処分方法など、日頃の支援の質向上にもつながっています。



ミュージックケアも「密」を避けて居室で実施



認定看護師(中央・右)により感染症対策を確認

## この春めでたく、技能実習1期生、全員が修了を迎えました！

令和元(2019)年より受け入れを開始した技能実習生4名が、3年間の実習を経て、令和4(2022)年10月に全員そろって修了式を迎えました。知識、技術の習得等を測る目的の評価試験では、専門級までの試験に合格し、自己学習の成果もあり日本語能力試験でもレベルアップが図れました。そのため、修了式ではそれぞれ自信に満ちた表情で修了書を手にしていました。令和5(2023)年4月には、特定技能の資格をもち光道園の職員として3名が入職しました。母国の家族に思いを馳せながら、ここ日本でさらに介護の専門性を追求し、新たに介護福祉士の資格取得することを次の目標として掲げています。利用者の方の健康を支え、多くの笑顔を見られるよう、園内の自立支援介護士養成セミナーでも学び続けておりますので、更なる成長をご期待ください。

※修了式での記念写真は、撮影時のみマスクを外しています。



## 越前町の高齢者の暮らしを支える「地域包括支援センター丹生」が開所！



令和4(2022)年6月1日、越前町からの委託を受け、朝日事業所にて高齢者福祉の拠点となる「地域包括支援センター丹生」が開所しました。

当センターの役割は、在宅で生活する高齢者の介護・医療・福祉・健康を包括的にサポートすることであり、暮らしの心配ごと、困りごとをまるごと受け止め支える仕組みを整えています。これまで越前町が直接、運営していましたが、6月からは当センターと、越前町地域包括支援センターの2つのセンターが、越前町全域を支えていきます。これまでに光道園が多岐にわたる事業の中で培った知識や技術を当センターの運営に活かして、越前町が掲げる「歳をとっても安心して暮らせるまち えちぜん」をともに目指します。そして、町民の皆様が「越前町で暮らせて良かった」と感じ、いつまでも健やかに住みなれた地域で生活していけるよう、関係機関、団体との連携を密に図りながら、支援していきます。

暮らしの中で気がかりなことがありましたら、当センターを積極的にご利用ください。

# 変わらない学びを育むために 変わる学びの環境

## ICT導入による職員育成の向上の取組み

光道園では、平成30(2018)年度より様々な場面でICT(Information and Communication Technology:情報通信技術)を導入し、利用者の方の生活の支援に活かしています。令和2(2020)年度からは、コロナ禍における感染予防の観点からオンラインでの研修が主流となり、職員育成のスタイルが大きく変化しました。

年間を通して毎年開催している「光道園重複障がい講座」「生活支援事例報告会」も、オンラインを活用した講座・報告会に切り替えました。時間を効率的に活用できることで、職員同士が“語り合う時間”を多く持つことができ、今まで以上に利用者支援に対する“想い”を共有することが可能となりました。これにより、職員同士の横の“つながり”がより強固なものになりました。

“変わらない”学びの機会を実現するために方法や手段を変えていく。そして支援を見つめ直すことで、“オンラインだからこそ”できる研修の可能性を見出し、職員を育成していく環境の継続・向上につながっています。

今回は、ICTを積極的に活用した職員育成の取組みから気づいたこと、新たな可能性についてお伝えします。

### 1

#### 研修の仕組みを自分たちで考える“きっかけ”に

新型コロナウイルスの影響により、これまで“当たり前”に行ってきた集合型・対面型研修の実施が困難となりました。しかし、それを逆手にとって「どうしたらできるだろうか」という創造と工夫、試行錯誤という光道園精神のもと、私たちは新たな研修の仕組み作りに挑戦する“きっかけ”を得ることができたのです。

平成30(2018)年に導入されたICTの活用可能性を見出していたことも相まって、その有効性を決定づけた研修が「生活支援事例報告会」でした。報告会ではオンラインアプリ『Zoom』を活用して光道園が事例を発信、これを共有する“プラットフォーム”を整備することで、報告者と光道園各施設・事業所の職員、助言者の先生方、県内外からのたくさんの参加者の方とをつないでいます。

昭和56(1981)年から始まり、40数年にわたって受け継がれてきた伝統的・文化的研修である生活支援事例報告会を『新たな“カタチ”で継承する』ことを目標に掲げ、令和2(2020)年からオンラインでの生活支援事例報告会を実施しました。そこから毎年少しずつ変化・進化させながら今年で3年目を迎えています。



## 2

### オンラインの周知と浸透へ

カメラや音響設備、オンラインアプリ「Zoom」などを早い段階から積極的に他の研修でも導入、活用しました。最初は使い方に慣れずトラブルも続きましたが、企画グループ職員や機器に詳しい職員が立ち上げやセッティングをサポートし、操作に慣れ使いこなせるようになるまでのバックアップを行いました。徐々にその有効性が認知・浸透してくると、法人全体の環境整備にも着手でき、次第に安定的な研修環境が整っていきました。

その上で、生活支援事例報告会での報告者・参加者の目線になって最適なシステムを構築し、毎年少しずつブラッシュアップしていったことで、企画運営す

る職員のみならず各施設職員も並行して少しずつ“使いこなす”実感と自信が持てるようになりました。



## 3

### 様々なメリットへの気づき

生活支援事例報告会は光道園の職員のみならず、園内外・県内外からも沢山の方に参加いただいています。以前の集合型・対面型の報告会では、会場のホールが満席になるほどでした。「Zoomのスクリーン画面が入室者(参加者)でいっぱいになると良いね」そんな思いが企画運営の職員にあったのかも知れません。「生活支援事例報告会2022」では、報告会開催期間の3日間で、延べ210名(法人内99名/法人外より111名)の方に参加していただくことができ、前年度の参加者数を大きく上回って、モニター画面はいっぱいになりました。

参加者の中には遠く宮城県、群馬県などの遠方からご参加いただいた方もおられ、「福井は遠いので参加をためらっていたのですが、オンラインで開催されたことで、はじめて参加することができました」や「生活支援事例報告会が身近になった」など嬉しいお言葉もたくさんいただいています。

これらの背景には、生活支援事例報告会に至るまでの報告者の1年間の取組みである「光道園重複障がい講座(年6回講座)」にアドバイザーとしてご協力いた

だている福井大学の先生方が大変大きな存在があります。報告者の実践(支援)に対しての助言だけでなく、コロナ禍という困難な状況の中で、毎講座そして報告会を「どうしたらできるだろうか」という思考、創造と工夫するという光道園精神を改めて私たちに気づかせ、企画運営側に寄り添い、深く支えてくださいました。

“オンライン”は、先生方と私たちを、また光道園と参加いただいた全ての方とを確かにつないでくれました。



# [ 施設・事業所紹介 ]

令和4（2022）年度の各施設・事業所の取組みを紹介していきます。

## 本ページの読み方

数字で見る では、施設・事業所の取組みを具体的にイメージできる数字を取り上げました。

トピックでは、今年度の取組みを「種をまく」「芽が出る」「花が咲く」の3段階で表しています。

-  「種をまく」では始めたばかりの取組み
-  「芽が出る」では継続的な取組みの経過
-  「花が咲く」では取組みの成果を紹介しています。

## 障害者支援施設 ライトワークセンター

施設入所支援・就労継続B型・生活介護・短期入所

ライトワークセンターは、様々な障がいによって生活全般の支援が必要な方が日中・夜間を通して生活を送る場です。その人らしく自立した日常生活、社会生活を送れるよう、身体介護に加え、就労の機会を提供し、さらに趣味活動や創作活動の機会づくりを行っています。生活支援では施設での健康な生活づくりと地域における積極的な社会参加に取組み、就労支援においては、一人ひとりの働く意欲や仕事のペースに寄り添った就労の機会提供に力を入れています。



### もっと外でアクティブに ～withコロナ～

#### 数字で見る

#### 季節を感じる行事数 **45回**

利用者の方と、共に考え、話し、開催した行事の数は年間45回に及びました。おやつ作りからウォーキング、花火等、内容は季節に合わせて多種多様。年を重ねても、繰り返される活動から共に季節を感じていくことを大切にします。

利用者の方の高齢化が進む一方で、若年層の方もいらっしゃいます。高齢の利用者の方からは「昔は海水浴に行ったんだよ」「海外旅行もしたしね」「宮崎まで歩いてヘトヘトになったわ」など、かつての思い出をたくさん聞くことができました。そのため、今年度は年齢に応じた支援と活動を幅広く提供できる施設でありたいという思いから、「体力アップ企画～若者ver. ～」と表し、歩行、登山、マ

ラソン等、健康な体づくりと社会参加の機会を軸に、共に楽しむ機会を創出しました。利用者の方が昔を懐かしむ時には豊かな思い出に包まれるように、高齢化に応じたサービスや、活動する機会の充実を図ると共に、このような達成感と共に楽しんで記憶を積み重ねていきたいと思



## 障害者支援施設 光が丘ワークセンター

施設入所支援・生活介護・短期入所（空床利用）

光が丘ワークセンターは、様々な障がいのある方が生活されています。中道初代園長の想いを引き継ぎ、「働く光道園」という名の下に、生産活動を中心とした、健康で自立した生活を送るための生活、日中活動の支援を行い、「自分らしい生活」を実現していきます。支援の根底にある「利用者の方と共に」を大切に、共に取組み、共に作り上げていく場所として、「くらし」と「活動」の場面を支えています。



### 数字で見る

#### 実践の証、年間入院者 **4名**

今年度は水分、食事、運動、排泄の4つの基本ケアによる入院者0名を掲げ取組んだ結果、入院者を4名にとどめることができました。これは昨年度7名の入院者から3名減少となりました。5年目を迎える自立支援介護の成果としても着実に積み上げていきます。



#### 「元気があれば何でもできる」自立支援介護に

光が丘ワークセンターの自立支援介護の取組みについて、5月に開催された日本自立支援介護・パワーリハ学会において「会長賞」を受賞しました。学会大会では、ケアによる精神疾患の症状の消失に注目し、自立支援介護の実践の中で得た成果について報告しました。作業への参加は、活動性の向上や自信の回復など、様々な行動変容につながり、

改めて、光が丘ワークセンターの「働く」ことの大切さを実感した事例となりました。今後も自立支援介護の取組みと「働く」を継続し、光が丘ワークセンターを利用すると元気になる、そんな選ばれる施設になれるよう、「元気があれば何でもできる」を合言葉にスタッフ一丸となって取組んでいきます。

## 就労支援事業所 フ・クレール

就労移行支援・就労継続支援B型

フ・クレールは、障がいのある方の「働く」を実現し「働いて成長する」を支援しています。また、就労支援を通して、働く利用者の方の満足度を高めることを目指しています。フランス語で「明るい」を意味する「clair:クレール」とお腹も心も満足感で「ふくれる」を組み合わせたものが名前の由来です。



### 数字で見る

#### フ・クレール創設から **10年目**

障がいのある方々の働きたい思いに沿って、丁寧に日々試行錯誤を積み上げてきたことが、10年という節目につながっています。これから20年、30年とこれまで以上に、働くことでの笑顔が絶えない施設にしていきます。



#### フ・クレールがふるさと納税も返礼品でも登場

目玉商品であるチーズケーキ、スノーボールが越前町のふるさと納税の返礼品に選ばれました。地域の方はもちろん県外の方にも新しく知っていただいたり、故郷の味として選んでいただきたりする機会になりました。その後は「美味しい」とリピート注文をいただくことも。フ・クレールが越前町から全国へ飛び出していくことで、利用者の方の働く意欲や励みにつながりますように。



#### 一般企業に羽ばたく **2名の卒業生**

就労移行事業では今年2名の方が晴れて一般就職されました。フ・クレールで培った技術、経験が就職された先の仕事でも活かしています。現在、3名の方が就労移行を利用されている方がいますが、2人の先輩の背中を追って、一般企業に就けるように支援していきます。

## もえぎ館

もえぎ館は、障がいのある高齢の方が多く生活されています。高齢化に伴う生活機能や身体機能の低下により介護が必要な状態であっても、自分らしい生活の実現にむけた支援を実践しています。



### 数字で見る

#### 自治会主催の行事 **61**回

自治会「青葉会」では、利用者の方の中から選ばれた役員が主体となり、行事を企画・開催しました。利用者の方全員で組織される総会でいただいた声を基に、行事内容や日中活動の提案を役員と職員が実現に向けた相談をして年間計画にしています。



#### きめ細やかな班活動は、新しい発見と信頼感に

もえぎ館は30～80代の幅広い年齢層かつ多様な障がい特性を持つ60名の方が生活しています。今年、利用者の方の意欲に添えるように、3つに分けた班体制を少人数の5班にして、活動日を毎週火曜、木曜に固定しました。細分化し時間を固定したことで、予定が組みやすく、希望に添った細やかな支援が可能になりました。例えば、「創作をしたい」という声には、班ごとに話し合ってテー

マを決め、活動時間に協力して少しずつ作品を作り上げ、文化祭にて5点の作品を出品できました。細やかな活動になるほど利用者の方の新しい一面を知り、職員も作品作りに携われたことで信頼関係が深まりました。今後も、利用者の方のより身近で「やりたい」を引き出し、「できた」喜びをわかちあえるように活動していきます。

## あさぎ館

あさぎ館は、年齢、障がい特性が幅広く、日常生活の様々な場面において、一人ひとりの力を引き出し伸ばすことを大切に、支援を行っています。「できなかったこと」を「できる」ようにするだけでなく、「できること」をさらに積み重ねて「本人のやりたいこと」につなげる。そのような取組みを様々な日常生活の場面で共に実践していきます。



### 数字で見る

#### あさぎ会の年間の開催 **7**回

20～80代と幅広い年齢の全ての方が健康で楽しく生活ができるように、利用者の方と職員が共に、管理栄養士や理学療法士などの専門職から学ぶ機会を設けています。加えて、制限がある中でも、楽しみをもって活動できる機会としても「あさぎ会」を設定しています。



#### 活動機会を増やして「学びたい」に応える自治会へ

自治会活動は、1年に3回から2ヶ月に1回に増え、今年度は管理栄養士や理学療法士、主任が講師になり、食の大切さや健康等のテーマで職員と利用者の方が共に学べる機会を設けました。また、4班それぞれで選ばれた会長が司会・進行を担っていくことで利用者主体の自治会となっており、今後は利用者の方からの学びたいという声が聞かれる活動にしていきます。



#### 班活動では皆で食べる機会も大切に

昨年は年間の個別の活動回数が499回あり、楽しみや喜びのある活動の芽が出てきていました。今年度は回数を維持しつつ、班ごとでの活動にも力を入れていきました。コロナ以前の夜間外出の代わりに、利用者の方が行きたがっていた飲食店の料理をテイクアウトする等感染予防にも気を配り、皆で食事をする事の楽しさを知ってもらう機会をつくりました。

ライトホープセンターは、様々な障がいのある方を対象とした施設です。一人ひとりの希望（ホープ）から始める取組み・支援・活動を大切にしています。

## わかば館（通所生活介護）

利用者の方一人ひとりのすばらしい長所、可能性を引き出し、その人の「できること」をさらに磨きあげていける活動・支援を実践しています。また、ご家族のニーズや困りごとにも可能な範囲で対応しています。



### 数字で見る

#### 前向きになれる環境設定 1つ

「わかば館」として2年目を迎えた今年も、利用者の方の得意・不得意に合わせて快適な環境や楽しめる活動を検討しています。まずは、「できる」「楽しい」につながるような作業スペースの移動、見通しの支援、視覚化、活動の時間と変化などの「環境設定」に取組みました。



#### 「皆で協力する楽しさ」を 味わう1年に

今年度は毎日「皆で楽しむ」をキーワードに、畑作りから収穫まで全ての過程を皆で協力したさつまいも会を開催できました。活動を通して、「今日もみんな？」「お芋一緒に持つ？」と相手を思いやり、気持ちを分かちあう言葉を多く耳にしました。これからも地域での活動から、笑顔溢れる時間を増やし、自分らしく住み慣れた地域での居場所づくりとなるかかわりを大切にしていきます。



#### 得意なことで活躍できる ステージを

一人ひとりの「個」の力を伸ばし可能性を広げられるよう、それぞれの得意なことを中心に職員と個別に取組む機会を持ちました。今年、クリスマス会でのピアノ発表、点字献立係等、「個」が輝くステージを増やしてきました。今後も達成感や自主性、自己肯定感が高まり、「次は何する？」「もっとやる！」と意欲に満ち、ご家族と共に成長を喜びあえる取組みを考えていきます。

## 共同生活援助事業所 とらいと・みらいと

共同生活援助

とらいと・みらいとは、障がいのある方がサポートを受けながら、自分らしい生活を実現する場です。令和元（2019）年度に男女混合だったグループホームを男性棟、女性棟にしました（男性棟「とらいと」10床、女性棟「みらいと」10床）。

アットホームな環境の中、日常生活のサポートに加え、精神的な支えとなるためのコミュニケーションを取りながら、一人ひとりの自立への思いを育てていくことを大切にしています。



#### 身体的な健康を追求して活気ある生活へ

令和2（2020）年にも取り上げた、自立支援ケアでは現在も水分摂取量を1500mlに設定し、水筒をお渡ししています。身体的な健康の維持の継続のために、衣・食・住それぞれの観点でその方にあった利用者のケアを提供することを大切にしました。取組みを進めた結果、大きな病気や事故も無く、毎日元気な姿も見受けられました。新型コロナ

ウイルス感染症も落ち着いてきたこともあり、グループホーム全体での行事活動や、自治会総会を通じての活動にもさらに力を入れ、共同生活における団結力や各自が自然と相手の気持ちを考えることのできる環境を育みます。それを進めた先には、いきいきとした生活となるように精神的ケアも提供していきます。

### 数字で見る

#### 利用者の方による 掃除 365日

利用者の方は毎日、自分たちの使うお風呂場を自分たちの手で掃除しています。当番は利用者の方同士で話し合って決め、都合が悪い時には曜日の変更等、助け合いの中で継続しています。

## きらら館

きらら館は、日中活動を通して働く喜び、学ぶ楽しさを利用者の方と共に感じ育むことで、「その人らしい生活」のための支援に取り組んでいます。近年では、盲重複障がい以外の利用ニーズも多く、一人ひとりに寄り添う支援を行っています。



### 数字で見る

自治会は年間 **7回**

利用者の方が楽しむための行事だけではなく、共用スペースの窓ふきを行う等、生活の中で役割を持つことで共に暮らす一人としての責任感と他者からの信頼を感じてもらいました。



### 地域を知り、地域のために活動し、地域に根付いていく

今年はお散歩マップを活用し586mと900mのコースに分かれて歩く「もみじ会」を実施しました。長距離を歩ける利用者の方は900mでも物足りなく、遠回りをして3.5キロも歩けた方もいました。道中、飛び交う赤とんぼや道端のねこじゃらし等に触れ秋を感じられていました。期待に応えるべくだんだんと距離を延伸していきます。

また、ある秋晴れの日には、利用者の方が職員と共に敷地横にあるバス停の掃除を行いました。コロナ禍が続いていますが「このバス停からバスに乗ってお出かけできるように」と思いを込めて、竹ぼうきを持ち、落ち葉を懸命に集めてごみ袋へ運ぶ様子がありました。利用者の方同士が笑顔で季節を感じ、施設周辺を知り、そこで暮らす一員として思いを馳せる機会になりました。

## さくら館

さくら館は、視覚と聴覚の重複障がいである「盲ろう」者の方も多く生活をしており、全国でも数少ない専門施設です。これからも教育機関など外部の専門家とも連携をしながら、盲重複障がいの専門性をさらに向上させ、利用者の方の生活を支えていきます。



### 数字で見る

カンファレンス 年間実施数 **385件**

利用者の方に変化があると、その都度職員でのカンファレンスを開き、支援に結び付けています。利用者の方の思いにとことん向き合うため、職員の年齢や肩書き、職種によらず同じ目的のために意見を出し合えるさくら館だからこそこの回数です。



### 再開した職場には、やる気が満ちる

長らく続くコロナ禍に仕事の需要が減り、仕事に通う方もお休みを余儀なくされてきました。いつでも再開できるように、新聞紙でゴミ箱を折る等の手仕事をして準備万端にその時を待っていました。今年度は状況が落ち着き、ついに仕事のオファーが…！利用者の方も「ワークの仕事に行きますか」の声掛けに、嬉しそうな表情を浮かべていまし

た。久しぶりのことにも机の上の箱折りの材料を手で触り、記憶を確かめる様子でした。いざ折り始めると、時間いっぱい手が止まることなく、やる気に満ちた真剣なまなざしに職員は圧倒されました。月1回の工賃支給では、嬉しそうにお金を数えながらお財布にしまい、使い道をあれこれと思いめぐらせていらっやいました。

ライフトレーニングセンターは、主に視覚障がいと、その他の障がいを併せる盲重複障がいの方を対象とした施設です。また、地域ニーズに対応した日中一時、短期入所など、在宅生活を支える社会資源としての役割を担っています。

## たねのいえ (通所生活介護)

たねのいえは、障がいのある方が、地域で安定した生活を営めるよう日中活動を中心とした支援を行うデイサービスセンターです。支援員に加え、看護師、理学療法士が常駐し、一人ひとりの状態に合わせたケア、リハビリテーションを提供しています。「たねのいえ」という名前には、障がいのある方の可能性の種が芽吹くようにという想いが込められています。



### 美味しい食事は手元から

安心安全で美味しく食べられるように、食事場面を他の専門職を確認し、食器やスプーンの大きさ、食事形態、姿勢、支援員の提供方法を見直しました。特に、自らの力で「食べる、飲む」ことができるよう器、コップ、スプーンを最適な形状や素材にすることで、食事の時の思わぬケガを防ぐことにもつながりました。



### 快適に過ごすためには、排泄も

言葉にしにくい方の排泄タイミングを掴むため、排泄の間隔を把握し、利用者の方の動きを注視してトイレへ誘導することや、トイレで座ってからの動きで排泄の有無を判断していくことを行いました。加えて、普段のコミュニケーションから意思疎通を図ることが排泄時にも活き、今では昼食後でもタイミングが合うことが増えてきました。

### 数字で見る

#### 緊急での利用受け入れ **5**名

法人内や併用サービスの他事業所でクラスター感染が発生した際、ご家族や事業所間、相談員とも情報共有の上で緊急での利用の受け入れを行いました。その後、法人内での緊急受け入れ時には1名の方の新規利用につながりました。

## こども支援センターえがお

児童発達支援センターわくわく・保育所等訪問支援事業すくすく・放課後等デイサービスにこここ

児童発達支援・保育所等訪問支援・放課後等デイサービス・短期入所

こども支援センターえがおは、発達に気付きのある未就学児や学童児、またはその保護者等の、療育や子育て相談に対応する療育機関です。児童発達支援センターわくわく、保育所等訪問支援事業すくすく、放課後等デイサービスにこここ、短期入所の4つの事業を行っています。子どもたちの自己肯定感や自尊心を育み、保護者の方の子育ての悩みに寄り添いながら、みんながえがおで生活できるサポートをしています。



### コロナ禍でも追及した「できる」は、子どもたちの「えがお」のため

感染力の強い変異株の流行に、児童の新型コロナウイルス感染症も増え、ますます活動が難しい年でした。しかし、皆で知恵を出し合い、理解と協力を得ながらコロナ禍前からのクッキングやドライブ、保護者交流会等を実施できました。特にクッキングでは、目で見て・感じて・体験できるよう、目の前で調理し、匂いや雰囲気、音を感じられる環

境設定にすると、普段控えめなお子さんもバクバクと食べ始め、改めて環境やかかわり方の大事さを実感しました。

「コロナ禍だからこそ、工夫して協力し合って実施していく!!」という姿勢に切り替えていったことで、より柔軟に動けるようになり、それは子どもたちの「えがお」につながりました。

### 数字で見る

#### 志を共にする実習生 **8**人

コロナ禍での実習課程は難航しました。しかし、最初は戸惑いながらも懸命に子どもと向き合う実習生の姿に、職員は新たな気づきもあり、実習の終わりを淋しがる子どもたちの様子から濃密な時間を分かち合えたと感じます。

## 相談支援センター こうどうえん

計画相談支援・障害児相談支援・地域移行支援・地域定着支援・委託相談支援  
鯖江市地域生活支援拠点センター「リノ」

相談支援センターこうどうえんは、鯖江市からの委託を受け障害者相談支援と重度化・高齢化・親なき後に関する相談窓口として地域生活支援拠点事業のコーディネーターを担っています。生活上の相談に応じ、その人らしい生活を共に考えています。また、計画相談では障害福祉サービスや児童通所支援等を利用される方がスムーズにご利用になれるようサービス等利用計画を立てる支援をしています。障がいのある方のみならず、子どもから高齢者までワンストップの相談窓口です。



### 仕事への興味関心から、 相談支援をともに高める実習へ

実習生の計画書に基づいた目標をもとに実習プランを作成し、相談支援専門員との訪問、利用者との面談機会を通して、本人のニーズに寄り添った支援を提供する大切さと役割を伝えていきます。これから福祉を担う若い人材から、相談支援専門員が学び取ることも多く、ともに相談支援を深める大切な実習となっています。



### 災害の備えは日常から、 勉強会の学び

鯖江市地域生活支援拠点事業の一環として、県の災害対策アドバイザー、行政、当事者等それぞれの立場から話を聞き、相談支援専門員として災害支援について考える機会を設けました。災害の備えについて話をする中、プランターの花に水があげられているかも安全確認のポイントになるなど、日常から災害に備える視点があると知りました。

### 数字で見る

#### 相談支援の魅力を伝えて **6人目**

平成28(2016)年より県内大学からの依頼で受け入れてきたソーシャルワーク実習も、今年で6人目へ。受け入れ可能な相談支援事業所がない頃から、教員と協議を重ね個々の実習生と向き合い、相談支援の魅力を伝え続けたことが数字に表れています。

## 越前町相談支援センター さざんか

基幹相談支援・障害者相談支援・指定特定相談支援・  
指定障害児相談支援・地域移行支援・地域定着支援

越前町相談支援センターさざんかは、越前町から基幹相談と障害者相談支援を委託されている相談支援事業所です。委託の相談では越前町にお住まいの方々の気がかりさや障がいに関する相談を広く受け付けています。また、計画相談では障害福祉サービスや児童通所支援等を利用される方がスムーズにご利用になれるようサービス等利用計画を立てる支援をしています。その他、住み慣れた地域、在宅での生活を継続するための支援なども行うなど、子どもから大人までワンストップに相談できる窓口であり続けます。



### 障がいのある方が安心して住み続けられる体制をつくる

障がいのある方が住み慣れた地域で暮らし続けるために、地域全体で支える体制をつくることを「地域生活支援拠点等事業」といいます。今年度は、越前町役場と越前町相談支援センターさざんかが旗振り役となって、越前町にある全ての障害福祉サービス事業所が、この事

業に登録するに至りました。今年度はまず、越前町にお住まいの障がいがある方とご家族に対して、災害時の福祉避難場所である光道園朝日事業所の見学を開始しました。有事の時の備えを作っていくことで、普段の暮らしを安全・安心なものにしていきます。

### 数字で見る

#### 受け止めた相談は **3967件**

「8050問題」といわれる80代の親が50代の子どもの暮らしを経済的に支える状況およびその状態については、相談内容に最も多くありました。どのようなケースでも各関係機関との連携を密に対応しています。

## 養護老人ホーム 第一光が丘ハウス

一般型特定施設入居者生活介護

第一光が丘ハウスは、65歳以上で、ご家族や住居状況の理由により在宅生活の継続が困難な方を対象とした施設です。入所の可否は市町村の判断で決まります。平成22(2010)年に改築され、全室個室に生まれ変わりました。その人らしいライフスタイルを実現できるよう、多職種が連携し、創意工夫ある支援を行っています。



### 数字で見る

利用者個人の目標達成度 **91%**

自立支援において、利用者の方、それぞれが目標を定めて、職員と共に歩行運動に取り組んでいます。運動の先の「ドライブに出かけたい」等の願いの実現のため、職員が毎日楽しく会話をしながら、時には励ましながら歩んだ成果です。



### 「笑顔プロジェクト」で 日常を楽しく

「利用者の方が「楽しめる活動」で沢山の笑顔へ」という思いから、今年度は新人職員3名に任命し「笑顔プロジェクト」という年5回の活動を行いました。折り紙、習字、足湯等、悩んで考えた企画は、利用者の方誰もが、一段と会話が増え、楽しむ様子に。利用者の方と職員が共に笑いあう活動になったことは職員の次の活動の意欲になっています。来年度の活動もどうぞ期待！



### 歯磨き習慣が 健康への意識をつくる

日常生活動作が自立している方が多く生活する1階の方を対象に口腔ケアの意識を高めるよう取り組んできました。歯科衛生士からのレクチャー、声掛けなどによって少しずつ口腔ケアへの意識づけになってきています。長年の生活習慣は変わりにくいですが、歯磨き習慣ができてくると「歯磨きが気持ちいい」、「入れ歯を作ってみたい」等健康への意識が出て、歯科通院する方も増えました。

## 養護(盲)老人ホーム 第二光が丘ハウス

一般型特定施設入居者生活介護

第二光が丘ハウスは、65歳以上で、ご家族や住居状況の理由により在宅生活の継続が困難な方を対象とした施設です。入所の可否は市町村の判断で決まります。平成22(2010)年に改築され、全室個室に生まれ変わりました。視覚障がいのある方が自立した生活を送れるよう、障がいに配慮した環境が整えられています。歩行訓練士や各専門職が連携し創意工夫のある支援をします。



### 数字で見る

視覚障がい者サポート研修 **30人**  
参加延べ人数

視覚障がいや個々の特性を理解し、その人らしいライフスタイルの実現を目指して視覚障がい者サポート研修を実施しました。研修には、歩行訓練士を中心に多職種が参加し、光道園として専門的な支援を学び合いました。



### 利用者の方の視点に立った視覚障がいの専門性

視覚障がいがあっても在宅生活と同様に施設で自立して生活できるよう、法人内で視覚障がいの基礎知識を含め、日々の関わりから生じた疑問へそれぞれの専門職からアプローチする専門研修を継続して実施しています。アイマスクによる全盲疑似体験では、視覚以外の諸感覚の有効活用法を学び、体験での感覚を職員同士が共有することで、利用者の方それぞれ困難・不便さには違いがあり、そこを出発点にした支援も一人

ひとり異なることを体感する機会となりました。

今年度、中途失明の入所者の方へは、居室内環境の把握と移動で混乱しないように、職員間で支援内容を統一したことで落ち着かれており、これまでの学びの成果が見られました。利用者の方の声に寄り添い「できる・できるようになる」をつくりだす、自立に向けた個別支援を充実させていきます。

## 特別養護老人ホーム 第三光が丘ハウス

ユニット型介護老人福祉施設・短期入所生活介護

第三光が丘ハウスは、認知症などの常時介護が必要な方のための入所または短期利用ができる施設です。「地域社会の中で自分らしく暮らしたい」という利用者の方の想いに寄り添い、畑や自宅への外出など、地域とのつながりを実感できる生活、「もう一つの居場所」としての環境づくりに取り組んでいます。さらに、明るく家庭的な雰囲気ユニットケア、利用者の方の自立を支援する質の高い支援の提供に向け、職員一人ひとりが学びと経験をしながら、専門性の向上に努めています。



### 数字で見る

#### 障がい者施設からの 住み替え **17**名

長らく障がい者施設で生活し、生活訓練作業なども取組まれてきた利用者の方が、年齢と共に介護を要し、「次の住まい」として選んだのは、慣れ親しんだ光道園でした。前施設と連携して第三光が丘ハウスが利用者の方の人生を支えています。



### 感染の経験をその後の対応に活かす

6月から約3ヶ月間の皮膚感染症(疥癬)、8月の新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、職員が感染しない、利用者の方に感染させないことための感染拡大防止策に取組みました。特に皮膚感染症は、園内での事例がなく発見の遅れや、非常に強い感染力も相まって気づいた時には既に10名以上の方に感染している状況でした。専門医による確定診断や感染症ごとの知識を共通に理解しておく大切さを肌で感

じた経験でした。また、2つの感染症発生時に短期入所の受け入れは断らざるを得ないこともあり、利用予定の方には大変なご迷惑をおかけしましたが、ご説明と謝罪時には、職員への労いの言葉もいただき、当施設の使命を改めて認識しました。対策として、マニュアルの見直しやシミュレーションでの確認作業を定期的に行うことを徹底しています。

## デイサービスセンター さざんかホール

通所介護

デイサービスセンターさざんかホールは、介護保険にて事業対象・要支援・要介護の認定を受けられ、在宅で生活されている方がご利用する通いの場所です。在宅での生活を一日でも長く継続することができるように、介護、看護、リハビリ、栄養の専門職が一丸となって支援させていただいています。自立支援介護における4つの基本ケア「水分・食事・排泄・運動」を重点的にを行い、利用者本人の「こうなりたい・もう一度挑戦したい」という思いが実現できるように、取り組んでいます。



### 数字で見る

#### 新規利用者 **33**名

例年、年間に25名程度のところ、今年度は特に新規のご利用をいただき、地域の方々の声に精一杯応えることができた1年でした。在宅生活継続のためのさざんかホールであることを再確認し、責任をもって利用者の方の心身を支えていきます。



### 自立支援介護を在宅でも！定着のための4つの取組み

今年度は、「利用時以外の在宅生活でも自立支援介護を定着させる」という目標を掲げ、4つの取組みを行いました。

- ①「水分」についてレクチャーし、水分量を保つ
- ②算出したデイ利用中の一日当たりの水分摂取量の平均値をグラフの形で周知する
- ③算出したデイ利用中の一日当たりの水分摂取量の平均値を、担当職員から

のお手紙でお伝えし、利用者の方・ご家族に意識づけていく

- ④自立支援介護を掘り下げた広報誌「はじめの一步」で定期的に発信する
- これらのことで、利用者の方の入院は20件に留まり、昨年比べ入院者を5名減らすことができました。在宅で元気に暮らせる日が一日でも長くあるように、これからも周知浸透を図ります。

## ヘルパーステーション さざんか

訪問介護支援

ヘルパーステーションさざんかは、訪問介護員(ヘルパー)が利用者の方のご自宅を訪問し、入浴・排泄・食事等の身体介護に加え、調理・洗濯・掃除等の家事援助、さらには生活等に関する相談・助言等の日常生活に必要な援助を行います。ご自宅で自立した生活を営めるよう安全・安心・適切な訪問介護サービスを自立支援・重度化防止の視点に立ちながら、365日切れ目なく行っています。



### 数字で見る

新規契約数 **16件**

在宅から新規にご相談をそれぞれ受け入れていき、16件の契約につながりました。利用者の方との信頼関係を築きながら、在宅で自立した暮らしとなるような、きめ細かな支援を継続し、同時に新規のご依頼に対応していきます。



### 元気に利用者の方の支援を行うための体づくり

今年度は健康なからだづくりを重視したりフレッシュ体操をヘルパーの研修に取り入れました。ヘルパーが行う支援を毎日続けていくためには、ヘルパー自身の健康な体づくりは欠かせません。使っている筋肉を意識してほぐしていき血流が良くなることで、体は温まり、鎖骨をさすり伸ばせば体も軽くなっていきます。年齢と共に、体

力、筋力も衰えていきますが、体操を身に付けていくことで、ストレス解消や疲労回復につなげ心身ともに健康な体で支援をし続けられるようにしていきます。また、身に付けたリフレッシュ体操は、利用者の方にも伝えていくことで、健康の輪をヘルパーから広がっていきます。

## 居宅介護支援事業所 さざんかホール

居宅介護支援

居宅介護支援事業所さざんかホールは、介護が必要な状態になっても、住み慣れた場所で、その人らしい自立した生活が送れるように、ご本人の希望を盛り込んだケアプランを作成し、サービス事業所や医療機関等と連携しながら調整しています。一人ひとりの「望む暮らし」の実現を私たちがお手伝いさせていただきます。



### 数字で見る

越前町の  
ケアマネジャー **5/14名**

現在、越前町には14名の居宅のケアマネジャーがおり、そのうち、さざんかホールには5名在籍し、町内で一番多くのケアマネジャーを抱えています。全国的なケアマネ不足が聞かれますが、5名のチームワークで越前町の介護を要する方を支えます。



### 地域包括支援センター丹生と連携を密に在宅生活の力になる

ケアマネジャーは、様々な機関と連携し在宅生活を支えています。特に、地域包括支援センターとは連携を強固に、複雑なケースをはじめ、様々な場面で包括職員とご自宅を訪問するなどして、ご自宅での生活を支えてきました。今年6月、園内に「地域包括支援センター丹生」が開所し、物理的にも距離が近くなったことで、ますます強力でタッグを組めるようになりました。



### 自己研鑽のための学ぶ機会を充実させる

ケアマネジャーは常にサービスの最新情報を掴み、最適なプランを模索するなど自己研鑽が求められる専門職です。今年は内部研修を毎週企画し、資料の読み合わせや現状の共有と話し合いに加え、ケアマネジャー専門誌の配信動画より、外部の専門家の講義を視聴する機会も設けました。日常業務に直結する生きた学びを大切に、利用者の方のためのスキルアップを図っています。

## 在宅介護支援センター さざんかホール

在宅支援・総合相談・予防教室

在宅介護支援センターさざんかホールは、越前町の委託を受け、地域の高齢者の安心できる暮らしのため、お宅を訪問し一人ひとりの心身の状態を把握(実態把握)しながら、介護予防を推進し、日々の生活に対する相談(総合相談)に応じています。地域の機関と連携を取り、身近な相談窓口として、これから地域のニーズに応え続けていきます。



### 数字で見る

予防教室の年間実施回数 **96回**

長引くコロナ禍に交流は限られていましたが、今年度は予防教室を定期開催でき、昨年の2倍近くの回数へ。出かけられず引きこもる期間も長かったにも関わらず、再び多数の方の参加や、また新規の参加も増えるなど、皆様のご様子に力をいただきました。



地域と紡ぐネットワークの中で、  
伝わる役割

地域を回る中で、多くの公的機関と連携しながら必要な支援につなげてきました。特に今年度は、地元の電器店、菓子店、近隣住民の方等の地域との顔の見える関係がづくることができ、連携先が増えました。地域からの声は、とても貴重なネットワークです。徐々に地域の方に当センターの役割が浸透してきていると感じ、今後も"支え合い・助け合い"の地域づくりを目指します。



つるかめ体操で  
高齢者が元気に暮らす越前町へ

今年度も高齢者の方の介護予防や、社会参加促進を目的に、つるかめ体操を中心とした予防教室を実施しました。地域包括と協力し、介護サポーター養成講座を開き、体操を教えられる方を増やすことや、開催地区も広げる等、高齢者の身近な地域での活動機会の提供にも取り組んでいます。"元気もりもり越前町"のため健康づくりを促進します。

## 地域包括支援センター 丹生

地域包括支援センター丹生は、介護、健康、福祉など高齢者の暮らしに関する様々な相談に応じる「ワンストップ窓口」です。高齢者等が要介護状態になることを予防するとともに、要介護状態等となっても、可能な限り、地域で自立した日常生活が送れるよう、高齢者等の健康保持及び、生活の安定に必要な援助を行っています。



### 数字で見る

つるかめ教室を  
新たに開いた地区 **3か所**

つるかめ教室は平成21(2009)年から行う越前町独自の介護予防のための体操で、主にコミュニティセンターや集会所などで実施されています。町内11か所での実施が今では60か所以上に増え、今年は新たに3か所の地区で始めることができました。



はじめまして、地域包括支援センター丹生です！

6月1日、光道園に新たに地域包括支援センター丹生が開所しました。その後は、各事業所へのご挨拶や、越前町の広報紙、園の広報誌『絆の杜』の特集記事への掲載、チラシを病院、歯科医院、薬局、センター等へ配布すること、民生委員会に参加するなどのことを通して、事業所の存在をまずは知っていただくためのPRをしてきました。

地域のつるかめ教室にも足を運び、地域包括支援センター丹生の職員の顔を覚えてもらい、相談しやすい関係づくりにも励んでいます。今年度は月平均17名の相談に対応してきました。次年度はさらに地域の皆様からご相談いただけるように、地域に積極的に出向いて身近な存在になっていきたいと思っています。

## リハビリ支援センター

リハビリ支援センターは、『小さな言葉にも耳を傾け、専門的視点からの気づきを大切に、利用者と共に学び続けること』『障がいの有無・程度に関わらず個々の可能性を信じ向き合い続けること』この二つの理念の下に、利用者の方一人ひとりの思いを尊重し、日々のリハビリテーションや、法人内の研修等を行っています。



### 人生を元気に歩むための 根拠ある支援

自らの可能性を広げ健康を保ち続けられる「元気になる介護」、根拠に基づく支援を重視してきました。平成31(2019)年度から、パーセルインデックス(BI)という利用者の方の日常生活動作を評価する指標を取入れたことで、食事、入浴、トイレ、歩行動作等をどの職員が見ても共通認識を持てるようになりました。その指標を基に介護予防に関する情報発信にもつながっています。



### 利用者の方も職員も 活気あふれる光道園へ

全ての動作に関わる「腰」は、健康においても要です。全国の介護職員の約6割が腰痛持ちとも言われますが、心身ともに健康を保ち仕事に打ち込めるように、今年度より、職員も毎朝ラジオ体操を取入れました。ラジオ体操は小学生以来という職員も多く、リフレッシュする時間に!並行して、腰痛に対してアンケート調査も実施し、その結果を用いて研修等で腰痛予防を意識する情報発信を行っています。

### 数字で見る

腰痛予防アンケート 81.4%  
回答率

職員の労働災害の多くは「腰痛」です。今年度は実態の正確な把握のため、職員アンケート調査を実施しました。その中で負担の少ない介助方法や予防法に高い関心があるとわかり、介護技術研修や腰痛予防体操等を取入れていくことになりました。

## 事務局(法人本部・総務グループ)

法人本部は、規則や体制の整備や経営の状況を把握するなど内部統制を担っています。総務グループでは、財務・財産管理や各施設の業務調整、渉外などを担い、法人の基盤を固め、利用者の方と働く職員をサポートしています。



### 職員が安心安全に働ける 職場として

労働災害を減らすため、今年度より、福井労働局の助言を受けて職場環境の改善を図っています。朝日事業所では、モップ清掃後の濡れた床で転倒事故の報告が多かったため、手順を見直し全施設共通のマニュアルで標準化しました。また、腰痛の現状把握と意識調査としてアンケートを行い、全施設でラジオ体操を始めました。引き続き職員が安心・安全に働ける体制づくりに励みます。



### 省エネと持続可能な 経営のために

昨今の光熱費の高騰への対応として、鯖江事業所にエアコン監視装置を導入しました。エアコンの一斉使用では、使用量の上限を一気に超えると基本単価が上がります。そのため、装置により使用量の上限を超えそうな状態を感知し、エアコンを自動的に止めます。今年度は42台導入し、節電効果は年間280万程度の見込みです。朝日事業所にも次年度に導入を予定しています。

### 数字で見る

男性初の育児休暇取得 1名

今年10月の育児・介護休業法の法改正で男性職員の育児休業(産後パパ育休)が新設されたことに伴い、法人で初めて男性職員が育休を取得しました。今後、「くるみん認定」(厚生労働省)を目指し、誰もが育児がしやすい環境を整えます。

## 事務局 (栄養グループ)

管理栄養士・栄養士一人ひとりが担当施設を受け持ち、利用者の方が健康で自立した生活を営めるように嗜好と食事内容を尊重した栄養ケアを展開しています。利用者の方に寄り添い、食べたいメニューを伺い、食事会等を通じて心と胃袋が満たされる食事の企画・立案を行っています。いつまでもお元気でいてほしい、そんな願いと想いを一緒に食べていただく食事づくりが私たちの使命であると感じています。



### 統合的なアプローチによる 食事ケアで栄養状態を改善

今年度初めて新型コロナウイルスのクラスター感染により、ある施設では1か月の対応の間に、栄養状態の悪化や体重減少等の課題が生じました。そのため、他職種と連携し、食事の質と量の改善、身体活動の促進、ストレス軽減等の統合的なアプローチにより、現在までに約8割の方の栄養状態が改善されました。日頃実践している栄養ケアの重要性を再認識でき、今後も利用者のQOL向上に取り組めます。



### 普段の食事、「不断」の食事

朝日事業所では3つの厨房から毎日3食の食事を提供しています。近年の自然災害や感染症等で継続的な食事提供が困難な経験を経て、どのような状況下でも食事提供を止めない調理業務をシミュレーションしました。約400食の下ごしらえや副菜の前日一括調理を老人施設の厨房で約20日行いましたが、滞りなく運営でき、人員の確保が困難な場面でも、食事の量と質を保つ食事提供が期待できる結果を得られました。

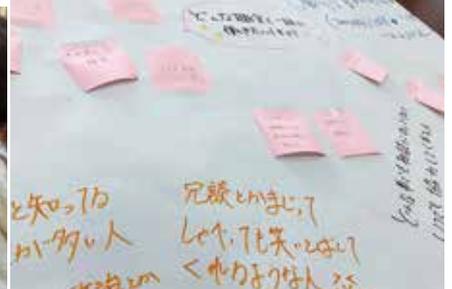
### 数字で見る

#### 自分で選べる食事 **733**回

全施設で昼食時にメニューを選択できるようにしており、週3回3~5種類、週5回2種類から選択できる等、バリエーションは豊富です。栄養士お手製メニューやリクエストを取入れ、食事の時間が楽しいものであるように努めています。

## 事務局 (企画グループ)

光道園の「今とこれから」を見据え、「障がい者支援施設の入所における相談窓口」「法人の魅力を効果的に発信する広報」「次世代を担う人材の確保」「やりがいを感じ長く働き続けられる人材育成」「地域福祉を支える公益的な取組み」など法人内外の幅広い部門のサービスを展開しています。園内事業所・施設を横断的に把握し、有機的につなぎあわせていくことで、地域に愛される光道園の魅力発信隊としてこれからも歩み続けます。



### 魅力を「伝える」から「伝わる」 広報誌へスキルアップ

各施設の広報担当者を対象とした「広報スキルアップ研修」を開催しました。想いが伝わる広報誌になるポイントを学ぶと同時に、グループワークで担当者同士が情報交換する時間も設け、お互いに学び合うこともしました。今後も利用者の方の日々の様々な表情を皆様にお届けできるよう、担当者自身も広報を楽しみながら発信していきます。



### 「ここで働く」イメージが膨らむ、 光道園印のリクルート活動

今年度は、インターンシップや職場見学会等、参加する学生の姿や意識に合わせ、「伝わる」ことを目的にした活動内容、資料で採用活動を展開しました。インターンシップでは、「知りたい」に応えるセミオーダー式にしたことで、働くイメージが描けるものになりました。今後も学生にも実り多い採用活動を継続し、ともに歩む福祉の担い手との出会いを増やしていきます。

### 数字で見る

#### リクルートチームで 包括的な採用活動を実施 **7**名

令和3(2021)年より、リクルートチームが発足しました。発足から2年、担当者の7名がそれぞれの強みを活かし、「みんながやる」チームとして、スピード感を意識した効果的な発信をしています。これからも、学生が光道園に魅力を感じ、熱意をもって就職していただけるよう取組んでいきます。

# 光道園へのエール

～コロナ禍でも一層感じる「心のつながり」～

新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から令和元(2019)年より、清掃ボランティアや慰問等の受け入れの制限が余儀なくされました。そんな状況下でも地域の方々から「何か別の形で協力できませんか」と、ご連絡をいただき、寄贈という形でたくさんのご支援をいただきました。寄贈いただいた品は、利用者の方が使用する石鹸や施設内を消毒する際に使用するタオル、飲み物など、利用者の方、職員が安心してくらすために必要な物ばかりでした。その品物一つひとつに寄贈いただいた皆様の“光道園を愛する気持ち”が込められており、地域の皆様との“心のつながり”をより一層実感しました。

## 令和4(2022)年 寄贈、寄付を頂いた皆様



丹生組仏教婦人会様  
タオル、日用品



鯖江市役所様  
手袋、エプロン



社会福祉法人にじの会様  
手作り絵本



株式会社タイヨー様  
災害非常用備蓄水



鯖江市赤十字奉仕団様  
タオルなどの日用品



朝日福寿会連合会様  
日用品



朝日地区民生委員・児童委員協議会様  
タオル



越前町婦人福祉協議会  
日用品



株式会社法美社様  
クリスマスケーキ



福井銀行教育福祉財団様  
ポッチャボールセット1セット 収納バック1個  
レク用ポッチャシート1枚



有限会社滝波牛乳様  
お茶、さつまいも



東京都立つばさ総合高校  
点字カレンダー 手作りテッシュケース

令和4(2022)年に光道園は創立65年を迎えましたが、その根底には、光道園を信頼し、応援して下さる地域の皆様の想いに支えられています。これからも皆様の想いに感謝し、地域福祉の担い手としてともに歩み続けていきたいと思っております。今後とも変わらぬご支援、ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

# 「10」の数字で見る



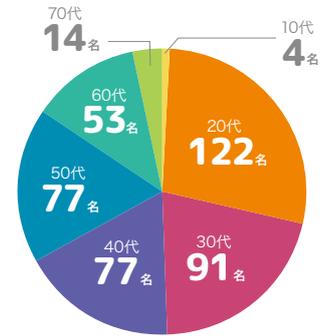
県内有数の職員数を誇る  
社会福祉法人



[R4]

**438名**

職員の年齢構成と在籍数



幅広い年代の職員が働いており、  
ライフステージが変わっても  
働きやすい環境が整っています。



職員の持つ福祉系資格

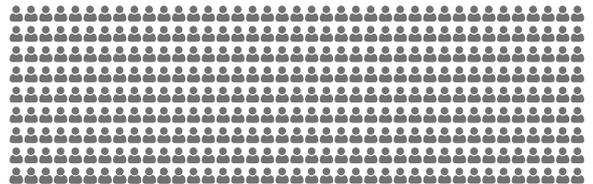
**15種類**

- |           |          |              |
|-----------|----------|--------------|
| 1 介護福祉士   | 6 看護師    | 11 鍼灸師       |
| 2 社会福祉士   | 7 歯科衛生士  | 12 管理栄養士・栄養士 |
| 3 精神保健福祉士 | 8 理学療法士  | 13 歩行訓練士     |
| 4 社会福祉主事  | 9 作業療法士  | 14 公認心理師     |
| 5 保育士     | 10 言語聴覚士 | 15 介護支援専門員   |

利用者の方の質の高い生活を創造するため、福祉専門職同士が連携した支援を行っています。



学びを開く福祉体験教室の開催

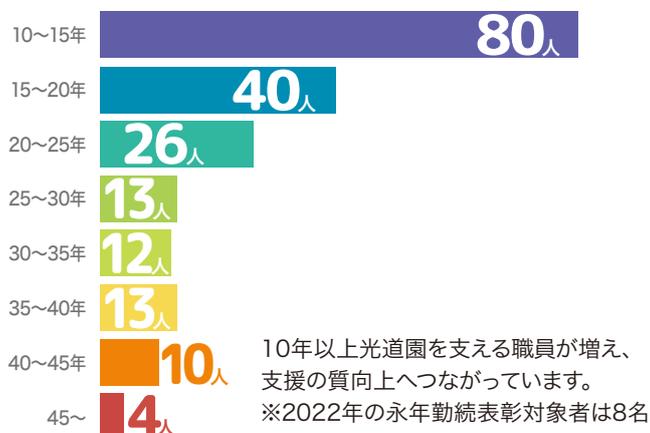


**10団体 363名** (オンライン授業含む)

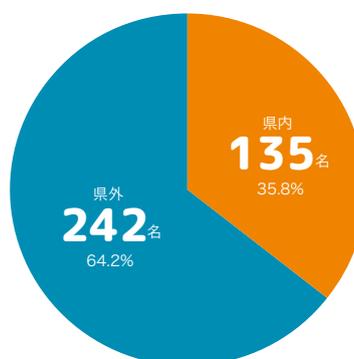
今年度は、多くを対面で開催でき、体験的な理解を重視しました。  
今後も、福祉の担い手育成として、福祉体験を継続していきます。



### 職員の勤続年数



### 障がい部門の利用者の方の出身地割合



令和5年3月31日現在、40の都道府県の方が光道園をご利用になっています。

### 資格取得者数

(令和4年度の資格の新規取得者数)



今年度は15名の職員が国家資格に合格しました。

### 学ぶ機会が多様に開かれる研修



対面研修も増え、研修あたりの受講人数も増えました。内部研修も内容の充実を図り、専門性向上による質の高いサービスの提供を共通の目的としています。

### 各種委託事業の成果

[ 白杖歩行訓練 ]

人数 **16人** 延べ回数 **40回**

[ 福井県盲ろう者向け通訳介助員派遣事業 ]

延べ回数 **106回**

福井県の委託事業を通して、地域ニーズへの対応を行いました。

### 生活困難者総合相談・生活支援事業 (ふく福くらしサポート事業) の成果

対応件数 **7件**

地域における公益的な責務として、生活困難者への経済的支援(食料などの現物支給)を行いました。今後も関係機関と連携し、自立した生活に向けた継続的なサポートをしていきます。

### ご寄贈いただいた団体数

[ 日用品関係 ]

**8団体**

[ レクリエーション関係 ]

**4団体**

昨年度に引き続き、タオルやお茶などの日用品、利用者の方と一緒に楽しめる手作り絵本やポッチャなどをいただきました。地域の皆様とのつながりをこれからも大切にしていきたいと思います。



# 光道園's origin

「学ぶ光道」  
～支援に携わりながら

## 何気ない日常の中にある「ドラマ」

昭和41（1966）年4月、光道園は盲重複障がい者の自立を支援する施設「ライトセンター」（現ライトワークセンター・ライトホープセンター）を開設しました。平屋建4棟、58名の利用者の方の生活の場として始まったその施設は、平成15（2003）年に同市和田町への新築移転に至るまで、37年の歴史を刻むことになりました。

その長い歴史において、何気ない日常の中には利用者の方が生み出す瞬間的で偶発的な数えきれない“ドラマ”がありました。ライトセンターの利用者の方9名で結成された“ミックバラーズ”という楽団の存在、活動もまたその一つであり、光道園を知る、語る上で重要なファクターとなっています。

## 一本のハーモニカの響き

ある静かな夕暮れ時、ライトセンターのどこかの部屋からハーモニカの音色が聞こえました。職員が行ってみると、一人の利用者の方が唱歌の“ふるさと”を吹いていました。それはか細い音色であり、何度も何度も突っ掛かり、途切れ途切れでしたが、その利用者の方は繰り返し“ふるさと”の曲だけを聴かせてくれました。これが、音楽を光道園の生活の中で創り出す出発点となったのです。

## 自主性と主体性の鼓動

個別的だった一本のハーモニカは、その後2人に、2人は4人… 6人となり「ハーモニカグループ」へ、グループはやがて40名を超える「器楽クラブ」といった集団活動（当時の利用者の80%が参加）へと広がり、ゆっくりとミックバラーズ誕生へと進んでいく段階を歩み始めました。一人ひとりバラバラで、たどたどしい吹き方・弾き方ではありましたが、皆が「自分で出来ること」を喜び、日常生活の様々な場面において初めて「自主性」と「主体性」を見出して「行動すること」を知り、その喜びを共に感じ素直に表現し始めていました。



# ストーリー 1957

園」の原点  
私たちは学び続ける～



## ミックの演奏が全国に響く

ミックバラーズの始まりは、施設行事の余興から偶発的に誕生した楽団(当初は10～20代の6名のメンバー)でした。大太鼓・小太鼓・シンバルを組み合わせたドラムもどき、リズム楽器としてタンバリンやカスタネット、メロディ楽器は鍵盤ハーモニカといった素朴で手作りの楽団でしたが、結成以来、その活動が話題となって徐々に世に知られるようになりました。10年経過した頃には福祉事業の催しや青少年育成事業、教育の一環などの機会に出演依頼をいただき、30数年の活動の間に県内外にて200回を超える演奏会の他、全国や地方のテレビ、ラジオ、新聞などの掲載・出演を果たしています。



『指先の詩人  
—ミックバラーズ物語—』  
著者・発行者 山内進

ミックバラーズの誕生から38年の歩みをまとめた書籍です。障がいとは何か、支援とは何かを改めて見つめ直すことができる一冊です。

## 「ミックに学び、福祉に学ぶ」

ミックバラーズは、手探りで広げていった活動とそこでの試行錯誤、挑戦を繰り返しながら、当時指導(支援)を担当した職員のみならず、多くの職員に様々な“学び”を与えてくれました。利用者の方一人ひとりに無限の可能性を見出し、一本のハーモニカからミックバラーズの結成、そしてその後30年以上に渡って彼らと歩み続けた先輩職員(OB)は、次のような思いを伝えています。

“ 専門的支援の道は奥深く、長い時間を要する。支援に携わりながら私達は学び続けなければならない事をいつも実感していた。

『ミックバラーズ物語 指先の詩』2006年(平成18)より ”

私たち支援者は福祉の「プロ」として、特に盲重複障がいの専門性に基づく知識・技術を持っています。しかし、時にそれが一つの“落とし穴”になることもあります。「障がい者は言葉では言わないが、身をもって介助や介護、指導の手法を教えてくれている」という視点をもちながら利用者の方と向き合い、常にその姿から学ぶということが必要です。利用者の方とかかわる手段は何も言葉や文字ではありません。音楽や学習など様々なツールを通して彼らと“対話”しコミュニケーションを持ち続けること、「利用者の方から学ぶ」という姿勢の大切さを、ミックバラーズのメンバーと先輩職員は伝えてくれています。現在、光道園では施設・事業所それぞれで、利用者の方の意欲から始まる活動を大切に支援しています。そこには、ミックバラーズが誕生した“ドラマ”と同じく可能性を信じて支援する姿があります。

社会福祉法人 光道園

鯖江事業所

〒916-8585 福井県鯖江市和田町9-1-1

朝日事業所

〒916-0146 福井県丹生郡越前町朝日22-7-1

事業所

- 障害者支援施設 ライトワークセンター
- 障害者支援施設 光が丘ワークセンター
- 障害者支援施設 ライトホープセンター
- 通所生活介護 わかば館
- 障害者支援施設 ライトトレーニングセンター
- 通所生活介護 たねのいえ
- 就労支援事業所 フ・クレール
- 共同生活援助事業所 とらいと・みらいと
- こども支援センター えがお
- 相談支援センター こうどうえん
- 越前町相談支援センター さざんか
- 養護老人ホーム 第一光が丘ハウス
- 養護（盲）老人ホーム 第二光が丘ハウス
- 特別養護老人ホーム 第三光が丘ハウス
- デイサービスセンター さざんかホール
- ヘルパーステーション さざんか
- 居宅介護支援事業所 さざんかホール
- 在宅介護支援センター さざんかホール
- 地域包括支援センター 丹生

令和4（2022）年度 年間スケジュール

- 4月
  - ・新人職員9名採用、総勢433名の職員でスタート
  - ・新たに管理職となった6名の職員を対象とした年間研修「ニューリーダー研修」スタート
- 5月
  - ・第21回日本自立支援介護・パワーリハ学会大会「会長賞」受賞
  - ・光道園SDGs 作戦（取組み）として、第3弾フードドライブ実施
- 6月
  - ・年次報告書『光道園レポート2021』発行
  - ・地域包括センター丹生 開所
  - ・広報誌『絆の杜61号』特集「私たちのこうどうえんカラー」発行
- 7月
  - ・京都大学名誉教授 森谷敏夫先生による講演会を開催
- 8月
  - ・重複障害研究所先生方3名来園 3年ぶりの学習会を開催
- 9月
  - ・創立模擬店（鯖江・朝日）開催
  - ・Weekly縁job 参加
- 10月
  - ・同行援護従業者養成研修 開催
- 11月
  - ・杉本福井県知事がライトホープセンター視察のため来園
  - ・光道園文化祭 開催
  - ・広報誌『絆の杜62号』特集「地域包括センター丹生 光道園朝日事業所内開設しました」発行
  - ・光道園SDGs 作戦（取組み）として、第4弾フードドライブ実施
- 12月
  - ・後援会向け広報誌『小さな社会86号』発行
  - ・縁job2022スペシャル 参加
  - ・第3回お仕事博覧会in福井県科学技術高等学校 参加
- 1月
  - ・第2弾 縁job2022スペシャル 参加
  - ・社会人を知る×福祉を知るフラット座談会 開催
- 2月
  - ・生活支援事例報告会・リハビリ実践報告会 開催
  - ・広報誌『絆の杜63号』特集「祝結（つなぐ）～いまここから～」発行
  - ・合同企業研究セミナー stepping2024 参加
- 3月
  - ・フクシ“で”語るインターシップ 開催
  - ・ふくい福祉就職フェア 参加
  - ・内定者応援セミナー 2023 参加

公式サイト

採用サイト

Facebook

Instagram

